教員養成課程におけるピアノ実技教材の考察

－ギロック作品の導入と効果－

Evaluation of Piano Textbook for Beginners in Teacher Training Course -Introduction of Gillock's Work and Its Effect

松井　裕樹[1]・松永　洋介[2]
MATSUI Hiroki and MATSUNAGA Yousuke

１．研究の目的

大学におけるピアノ初心者の指導において最も使用頻度が高いのはバイエルやバイエルを基調とした教材である。しかし、幼児からのピアノ指導ではバイエルよりも他に様々な教材が開発され使用されている。

岐阜大学教育学部においても松永の担当するクラスはバイエルを基調としたテキストを使用しているが、松井の担当するクラスでは、ウィリアム・ギロックの作品（以下ギロック作品）を使用している。使用している教本は、『ビギナーのためのピアノ小曲集　はじめてのギロック（以下『はじめてのギロック』）、『叙情小曲集』、『ギロック　こどものためのアルバム（以下『こどものためのアルバム』）、『発表会のための小品集』（いずれも全音楽譜出版社）である。ピアノをこれまでに経験したことのない学生には、『はじめてのギロック』を使用し、経験者には、経験年数に応じて他の３冊から学生の実態を見ながら選んで教材としている。

本研究では、ギロック作品の特徴と利点を明らかにしながら、その教育的効果を考察していく。特に、本稿では、ピアノを全く経験したことのない学生を対象として使用している教本『はじめてのギロック』に重点を置き、その効果を考察することを目的とする。その上で、これまでの授業で明らかになったギロック作品を用いることへの課題にも言及する。

２．ギロックについて

ウィリアム・ギロックは 1917 年にアメリカ・ミズーリ州で生まれた。歯科医師の父から手ほどきを受け、幼い頃からピアノの学習を始めた。その後、ミズーリ州ファイエットにあるセントラル・メソジスト大学に進学し、音楽の専門的な学習を始めた。しかし、幼少期に専門家の指導を受けてこなかったため、「音楽専攻の１回生になるまでに、基礎勉強が欠けていたギロックには、２年間の補修が必要」[3]であったという。

大学を卒業後、ギロックは、航空会社や広告代理店などで勤務し、その後ニューオーリンズへ移り音楽教室でピアノを教えることとなった。ギロックの弟子であったヘンリー・ドスキーは、ギロックについて「とても親切な人で、ピアノのレッスン、そして日常生活を通じて、だれもが彼の温かさ、優しさ、寛大さを知っています」[4]と述べている。また、ギロックのレッスンについてドスキーは、「音

---

[1] 岐阜大学教育学部非常勤講師
[2] 岐阜大学教育学部音楽教育講座
[3] W.L.ギロック（安田裕子訳・解説）（2014）『ギロック　ピアノピース・コレクション 1』、株式会社全音楽譜出版社、p.4
[4] 同上書、p.4

楽的に表現しようとするひたむきな努力は全てほめてあげるべきだと思っていましたから、生徒が弾くといつもいいところを探してほめてくれました」[5]と証言している。「9 歳の時、厳しい先生が嫌でピアノのレッスンをやめてしまった」[6]ドスキーのこれらの証言からは、ギロックの人としての優しさや、心の負担に気を配るギロックの教育理念がうかがえる。また、同じくギロックに師事した安田はギロックについて、「生徒一人一人の個性と能力と感性を育てることを第一に考えた教師であった」[7]としている。山本は、ギロックの教本を「『大人っぽく深みのある音楽性』と『子どもの指を知り尽くした運指のやさしさ』」[8]を両立した教本であると評価している。それは、こういったギロックの理念や人柄が、彼の作品にも反映されていると考えることができる。

３．ギロック作品の教材性について

ギロックは、音楽教育について「音楽教育で一番大切な時期は初めて音楽を学ぶ生徒や初心者を導くときである」[9]としており、初心者に与えるピアノ教材について意欲的に作品を研究した。また、「教育的観点のみの曲は大変退屈」であり「ストリーボック、デュベルノワ、チェルニーの多くの曲は、努力と時間に値しない」とし、教材には「音楽的なおもしろさ」[10]が重要であると考えていた。

このような考えのもと、ギロックは作品作りにおいて次の点を大切にしていると述べている[11]。

① 弾く人を、ピアニストになった気分にさせること、そして 10 本の指と 88 鍵を使って弾いていると感じさせること
② 実際弾くよりも、難しく聞こえる曲であること
③ 自然なリズムの流れを大切にし、初めの 3 年間は休止符やタイを強拍で使うのは極力避けること
④ 歌いやすいメロディーであること
⑤ 初歩段階のやさしい補助教材にも、多種類の調の使用が必要であること

ギロックが大切にしたこれらの観点は、相互に関係している。つまり、「ピアニストになった気分」にさせるためには、狭い音域や限られた音で作られた曲よりも、「多種類の調」で作曲された曲の方が効果的である。また、広い音域を使って作曲された曲や、色々な音が使われ様々なハーモニーが現れる曲は、「難しく聞こえる曲」につながる。さらに、強拍における休符の使用や、強拍がタイで結ばれるシンコペーションの使用を避けることは、「歌いやすいメロディー」に関係している。

次に、以上の点を踏まえ『はじめてのギロック』の各曲を以下に比較する。

No.	タイトル	調	使用音域	その他特記すべき事項
1	さあ、ワルツを踊ろう	ハ長調	$g - c^2$	・ 臨時記号による黒鍵使用がある
2	のろし	ト短調	$G - b^1$	・ 臨時記号による黒鍵使用がある
3	道化師たち	ト長調	$G - c^3$	・ 2 オクターブのポジション移動があ

[5] 同上書、p.4
[6] 同上書、p.4
[7] ウィリアム・ギロック（安田裕子訳・解説）（2016）『ギロック ピアノメソード ピアノ・オール・ザ・ウェイ レベル 1A』、株式会社全音楽譜出版社、p.2
[8] 山本美芽（2017）『ピアノ教本ガイドブック～生徒を生かすレッスンのために～』、株式会社 音楽之友社、p.81
[9] ウィリアム・ギロック（2016）前掲書、p.2
[10] W.L.ギロック（安田裕子訳・解説）（2001）『ギロック　アクセント①長調と短調』、株式会社全音楽譜出版社、p.3
[11] 同上書、pp.3-4

No.	タイトル	調	使用音域	その他特記すべき事項
				る ・ 臨時記号による黒鍵使用がある
4	塔の鐘	ヘ長調	$F_1 – f^3$	・ 11 小節間踏み変えのないダンパーペダルの使用がある
5	小さな羊飼い	ニ短調または ニ長調（調号なし）[12]	$D – d^3$	・ 民族的なメロディーによる曲 ・ 臨時記号による黒鍵使用がある
6	スイレン	ハ長調	$G – c^3$	・ 腕を交差させて弾く ・ ダンパーペダルの使用がある ・ 臨時記号による黒鍵使用がある
7	スクエア・ダンス	ハ長調	$c – g^1$	・ メロディーを両手で受け渡す ・ ト長調へ転調する ・ 臨時記号による黒鍵使用がある
8	お化けのあしあと	ニ短調	$D – b^2$	・ 不協和音程による終止 ・ 臨時記号による黒鍵使用がある
9	新しいローラースケート	ト長調	$G – g^3$	・ 腕を交差させて弾く ・ 臨時記号による黒鍵使用がある
10	ガラスのくつ	ハ長調	$c – c^3$	・ 腕を交差させて弾く ・ ヘ長調へ転調する ・ 臨時記号による黒鍵使用がある
11	のぼっておりてキーボード	ハ長調	$a – e^1$	・ $\dot{ハ}$が両手親指のポジションとなる曲 ・ メロディーを両手で受け渡す
12	小犬	ハ長調	$g – e^1$	・ $\dot{ハ}$が両手親指のポジションとなる曲 ・ メロディーを両手で受け渡す
13	サーカスのピエロ	ハ長調	$g – g^1$	・ メロディーを両手で受け渡す ・ 右手の第 3 指、第 4 指、第 5 指を用いて弾く
14	スノーマン	イ短調	$g – f^1$	・ メロディーを両手で受け渡す
15	ハロウィンの魔法使い	イ短調	$a – f^1$	・ メロディーを両手で受け渡す
16	リトルブラスバンド	ハ長調	$g – f^1$	・ 両手がそれぞれ旋律を受け持つポリフォニー様式
17	おとうさんのロッキングチェアー	ハ長調	$g – f^1$	・ ホモフォニーの要素が強い曲 ・ メロディーを両手で受け渡す

[12] 今野万実は「指づくり　音作り　耳づくり」においてこの曲をニ短調としている。

No.	タイトル	調	使用音域	その他特記すべき事項
18	ガラスのビーズ	ハ長調	g – c^2	・ フレーズのまとまりに変化がある曲
19	ステイトフェアー	ハ長調	g – g^1	・ 左手がメロディーを受け持つ
20	空とぶじゅうたん	ハ長調	c – c^2	・ 腕を交差させて弾く ・ ダンパーペダルの使用
21	柱時計と腕時計	ヘ長調（調号なし）	c – c^2	・ ポリフォニーの要素が強い曲
22	冬の風	ニ短調（調号なし）	d – a^1	・ 右手のメロディーをそのまま左手が模倣する
23	竹にそよぐ風	ヘ長調または ニ短調（調号なし）[13]	d – d^2	・ 民族的なメロディーによる曲 ・ ダンパーペダルの使用
24	インディアンの雨乞いダンス	ニ短調（調号なし）	d – d^2	・ 左手に重音によるメロディーがある曲
25	サマータイムポルカ	ハ長調	g – a^1	・ メロディーを両手が受け渡す ・ 臨時記号による黒鍵使用がある
26	グレーの小さなロバ	ト長調	g – a^1	・ メロディーを両手が受け渡す ・ 臨時記号による黒鍵使用がある
27	インディアンの戦いのうた	ニ短調	d – d^2	・ 臨時記号による黒鍵使用がある ・ 両手に同音のメロディーがある曲
28	パリの花売り少女	ハ長調	fis – a^1	・ 臨時記号による黒鍵使用がある ・ ト長調へ転調する ・ アゴーギクの学習
29	小川で水あそび	ニ長調	A – a^2	・ 臨時記号による黒鍵使用がある ・ 同音型による２オクターブのポジション移動
30	帆船	ヘ長調	F – a^2	・ 臨時記号による黒鍵使用がある ・ ダンパーペダルの使用
31	ジプシーキャンプ	ニ短調	d – b^1	・ 臨時記号による黒鍵使用がある ・ 親指の移行がある曲
32	アルゼンチン	ト短調	G – g^2	・ 臨時記号による黒鍵使用がある ・ 同主調への転調がある
33	夏の夜空の星	ニ長調	d – fis^2	・ 臨時記号による黒鍵使用がある ・ 腕を交差させて弾く
34	ガボット	イ短調	gis – e^2	・ 臨時記号による黒鍵使用がある ・ 同主調の関係で次曲と対になって

[13] 今野万実は「指づくり　音作り　耳づくり」においてこの曲をヘ長調としている。

No.	タイトル	調	使用音域	その他特記すべき事項
				いる
35	ミュゼット	イ長調	a – fis^2	・ 前曲と対になっている ・ 左手に 6 小節間の保続音がある
36	真夜中のふくろう	ニ短調	d – d^2	・ 右手のメロディーに半音階が使用されている ・ 臨時記号による黒鍵使用がある
37	漂う雲	ト長調	G – h^2	・ 臨時記号による黒鍵使用がある ・ 腕を交差させて弾く
38	雪すべり	ト長調	G – g^3	・ ト長調のスケールが使用されている ・ 臨時記号による黒鍵使用がある
39	女王様のメヌエット	ホ短調	dis – d^2	・ 臨時記号による黒鍵使用がある ・ アゴーギクの学習 ・ 中間部で平行調へ転調する
40	サーカスを見に行って…	ハ長調	D – c^3	・ 臨時記号による黒鍵使用がある ・ 左手に親指の移行がある
41	インディアンの踊り	イ短調	A$_1$ – a^3	・ 臨時記号による黒鍵使用がある ・ 強拍に休符が用いられている
42	おもちゃのダンス	ハ長調	H – c^2	・ 臨時記号による黒鍵使用がある ・ 強拍に休符の用いられたメロディーがある
43	東洋の市場	ホ短調	E – e^3	・ 臨時記号による黒鍵使用がある ・ オスティナートバスによる伴奏
44	サマータイムブルース	ト長調	C – a^2	・ 臨時記号による黒鍵使用がある ・ ブルー・ノートが使用されている

この『はじめてのギロック』は、彼が作曲した初心者向けの曲集「Accent On Solos (AOS)」レベル①～③と「若いピアニストのためのはじめてのビッグノートソロ」がまとめられた教材である[14]。『はじめてのギロック』中、第 11 曲から第 24 曲までが、AOS のレベル①の曲である。同様に、第 25 曲から第 36 曲までがレベル②、第 37 曲から第 44 曲までがレベル③の曲である。第 1 曲から第 10 曲までは、『若いピアニストのためのはじめてのビッグノートソロ』にあたり、安田は「ちょうどこのレベル（＝AOS のレベル①）で併用できる曲集（括弧内引用者）」[15]としている。レベル①にあたる第 11 曲から第 24 曲は、ポジション移動も少なく非常にシンプルな構成となっている。しかし、黒鍵の使用はないものの、ヘ長調やニ短調の曲が取り入れられており、初心者にも「多種類の調の使用が必要である」というギロックの理念が盛り込まれた曲になっている。また、腕の交差が必要な曲やペダルの使用も取り入れられ、学習者が「ピアニストになった気分」になれるよう工夫がされている。

[14] 安田裕子訳・解説（2005）『ビギナーのためのピアノ小曲集　はじめてのギロック』、株式会社全音楽譜出版社、p4
[15] 同上書、p4

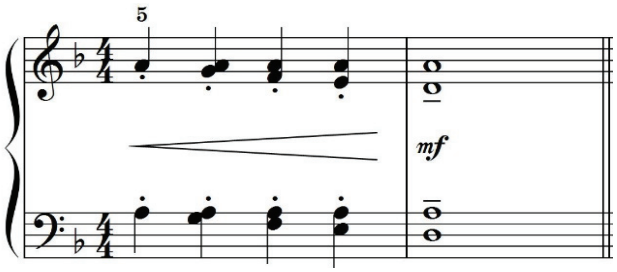
レベル②からは、全ての曲で黒鍵の使用がある曲となっており、これは初心者向けの曲集としては特筆すべき点であると考える。ピアニストであったショパンは、「ハ長調は譜読みこそ一番やさしいが、まったく支点がないので手を動かすには最も難しい調」とし、ピアノ学習については「手を置き易く、長い指が黒鍵を抑える調から始めるのが良い」[16]と考えており、『はじめてのギロック』はまさにこの考え方と一致しているといえる。つまり、手と鍵盤の構造を利用し、無理のない学習ができる曲集であるといえ、「子どもの指を知り尽くした運指のやさしさ」という山本の考えを裏付けるものである。

また、第９曲「新しいローラースケート」、第 38 曲「雪すべり」、第 43 曲「東洋の市場」では４オクターブの広い音域にわたって音が使用された曲となっており、こうした幅広い音域で作られた曲が取り入れられていることも、ギロック作品の特徴であるといえる。こういった、広い音域での曲や、前述した黒鍵が使用された曲は、ギロックの「88 鍵を使って弾いていると感じさせる事」という考えが取り入れられたものであると考えることができる。

また、第 41 曲以降では、強拍に休符が置かれる曲や、ブルー・ノートが取り入れられた曲が取り入れられているが、その他の曲では「歌いやすいメロディー」であることに重点を置いた作品となっているといえる。

４．ギロック作品を用いた指導とその効果

松井クラスでは、それぞれの学習者の特徴や進度に合わせ、曲集の中から適宜曲を選び教材として与えている。例えば、打鍵が弱く音がはっきりしない学生には、「インディアンの雨乞いダンス」などを教材として与え、力強さが要求される曲を通して打鍵が弱いという課題を達成できるようにしている。反対に、打鍵が乱暴になりがちな学生については「小川で水あそび」などの曲を教材として与えている。また、同じ技術的問題を持つ学生でも、学習の進度や理解度に違いのある場合もあり、そうした場合は技術的難易度を考慮しながら同じ教育的効果が期待できる楽曲を教材として与えている。例えば、「インディアンの雨乞いダンス」と「インディアンの戦いの歌」は曲想や雰囲気が非常に似た曲であり同じ教育的効果の期待できる曲だが、「インディアンの戦いのうた」の方が技術的にやや難しい作品となっている。具体的には、譜例１に示す部分や音の数の多さなどが難しい要因となっている。



譜例 1　「インディアンの戦いのうた」第 17・18 小節

学習の進度が早く、技術の高い曲に挑戦できる学生には「インディアンの戦いのうた」を教材として与え、比較的学習進度の遅い学生には「インディアンの雨乞いダンス」を教材として与えながら、同じ課題が達成できるようにしている。

このように、それぞれの学生の学習の進度や技術の習熟度を考慮しながら進めているため、全員が同じ曲を同じ順番で進めていくことはしていない。ただし、習熟度に応じて学習する時期に違いはあるが、ピアノ演奏において誰もが必要であると考えられる技術習得のために、全員に必須の課題として「のぼっておりてキーボード」「さぁ、ワルツを踊ろう」「真夜中のふくろう」「雪すべり」の 4 曲

[16] ジャン＝ジャック・エーゲルディンゲル（米谷治郎・中島弘二訳）（2015）『弟子から見たショパン―そのピアノ教育法と演奏美学―』、株式会社音楽之友社、p.261

を与えている。

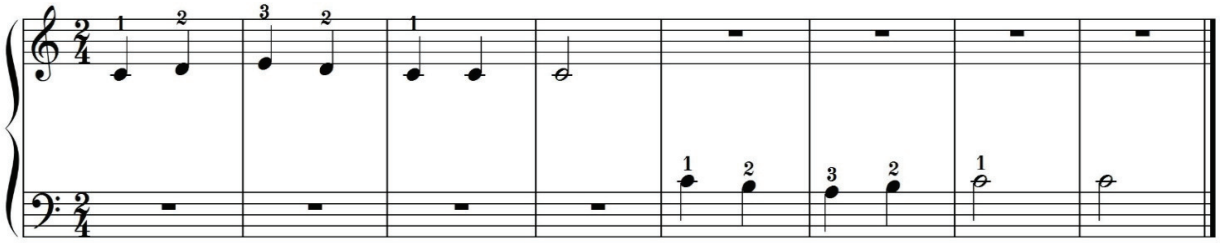
次に、必須課題として設定している前述の 4 曲について特徴と教育的効果を述べる。

（1）「のぼっておりてキーボード」－ピアノ学習のスタートの教材として

この曲は、これまで全くピアノ経験のない学生がピアノ学習をスタートさせるための教材として用いている曲である。この曲の特徴は、c1 に両手親指を置くポジションでスタートする曲になっており、このポジションから移動することはない作品となっていることである。このポジションのことを、山本は「ミドル C ポジション」[17]と呼び、このポジションを導入している多くの教本が「生徒が自分で楽譜を読むのにやりやすい場所から弾かせている」[18]と評価する。

また、譜例 2 のように、両手とも第 1 指、第 2 指、第 3 指を同じ順番で使うことで演奏できる曲となっていることも特徴で、左右の手が同じ動きをするため取り組みやすい楽曲となっている。

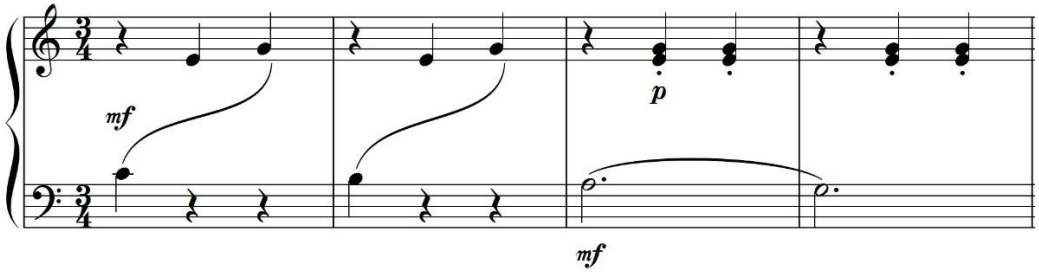
この楽曲を通して、学生は音の位置・音名・運指について学習する。先述の通り、運指やポジションに工夫があるため、この曲でつまずく学生はほとんど見られなかった。



譜例 2　「のぼっておりてキーボード」第 9 小節から最終小節（運指筆者）

（2）「さぁ、ワルツをおどろう」－ピアノ学習の第 2 ステップとして

この曲は、先述の「のぼっておりてキーボード」の次の課題である。「のぼっておりてキーボード」は、右手と左手が同時に使われることがない楽曲であったのに対して、「さぁ、ワルツをおどろう」では左右の手が同時に使われる点が、技術的にステップアップしていることになる。また、左手がスラーであるのに対し、右手はスタッカートとなっている部分があり、左右の手が独立した動きを求められる楽曲となっている（譜例 3）。



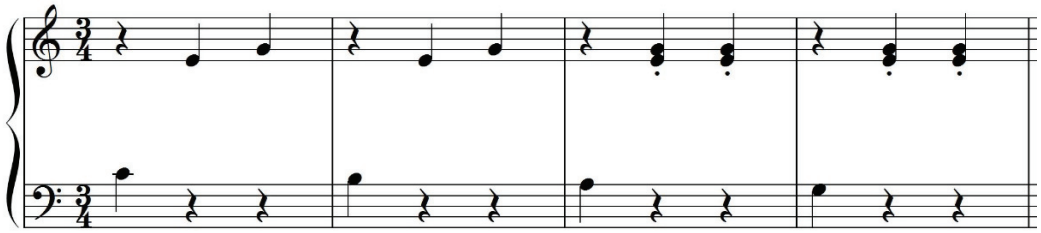
譜例 3　「さぁ、ワルツを踊ろう」第 1 小節から第 4 小節

この曲の特徴は、第 1 小節・第 2 小節の右手の構成音が、第 3・第 4 小節の和音の構成音にそのままなっている点である。1 音ずつ弾いていた音を、和音として同時に鳴らす際に、左手も同時に使用するように作られているため、両手を同時に使うことに抵抗なく取り組めるようになっているといえる。また、第 3 小節・第 4 小節では左右の手が独立した動きを必要とするが、左手の進行が a から g への順次進行となっているため、左右の手を独立して用いることにほとんどの学生が苦労しないで取り組

[17] 山本美芽（2017）前掲書、p.43
[18] 同上書、p.48

むことができる。

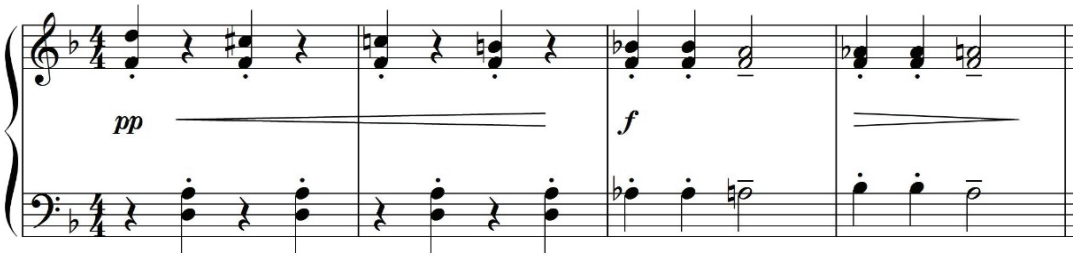
なお、この楽曲では譜例４に示すように弾く学生が見受けられるため、休符と付点２分音符についても学習させている。



譜例 4　学生に多く見られる間違いの例

（３）「真夜中のふくろう」－ダイナミクスを考えながら演奏する教材として

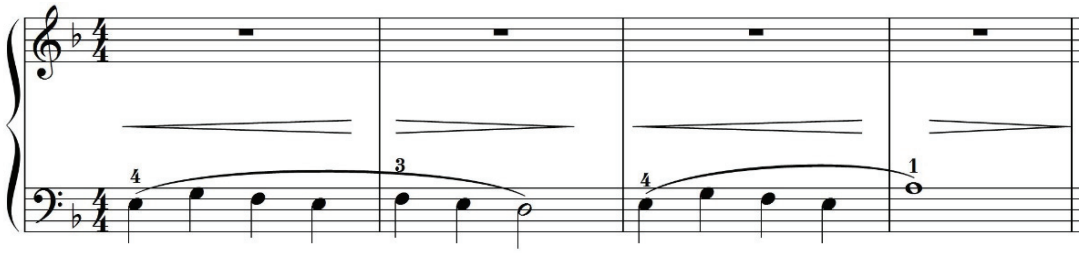
この作品は、右手の半音階の進行が特徴的な作品となっており、タイトルにある「真夜中」を連想しやすい雰囲気を持った曲である。また、前半は、半音階で下降してきたメロディーと共にクレッシェンドが指定されており、半音階の持つ雰囲気を一層際立たせている。さらに、譜例５のように、ピアニッシモで始まった楽曲が 2 小節間でフォルテまで大きくなることも特徴で、学習者が委縮せず、強弱を大胆につけて楽しみながら弾けるよう工夫がされている曲であるといえる。



譜例 5　「真夜中のふくろう」冒頭部分

なお、この曲は前述のとおり半音階的進行が特徴的であるため、強弱に気を付けながら弾けなくても、それなりに曲想に合わせた演奏ができる。そのため、ピアノ学習につまずきのある学生でも、落胆したり挫折感を味わったりすることなく、自分のペースに合わせながら強弱の持つ効果を学習していくことができる曲である。

後半からは、片手ずつのメロディーとなるが、それぞれのフレーズにおいて音が最も大きくなる部分を第１指または、第３指で弾けるように作られている（譜例６）。



譜例 6　「真夜中のふくろう」後半部分（運指筆者）

ショパンは第１指について「一番大きくて太く強く、一番短くて動きの自由な指」とし、第３指につ

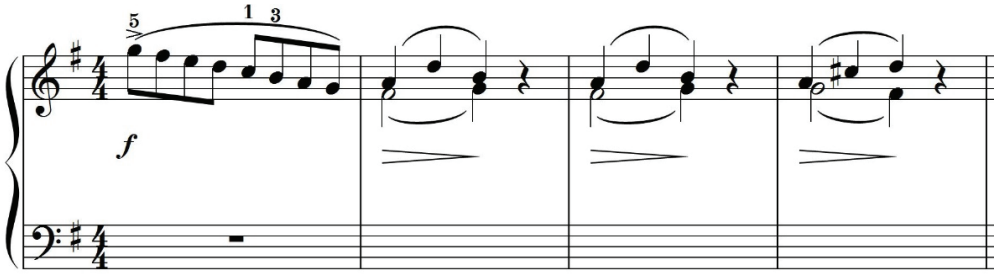
いては「中央にあって全体の支点となる」[19]指であると述べており、これらの指は大きく豊かな音量が求められる部分に適した指であると考えられる。したがって、この部分は片手ずつでも強弱の効果が十分に得られるよう工夫されている曲といえる。

また、この作品は第 15 小節・第 16 小節のみ、ダイナミクスが何も指定されていない。これは、「ピアニストになった気分にさせること」というギロックの理念が反映されていると考えることができる。したがって学習者がそれぞれダイナミクスを考えて弾くことができ、楽しんでピアノの学習を進めることができることにつながるものである。しかし、技術の習得につまずきのある学生にとっては、強弱を自分で考えることが困難な場合があるため、学生の学習状況に合わせ指導を行うことが必要であろう。

（4）「雪すべり」－親指の移行とポジションの移動についての学習

この曲は、前学期の最終段階の課題である。この曲にはト長調のスケールが使用されており、親指を移行させながらポジションを移動する技術が必要となる。

この曲の特筆すべき点は、この曲中の全てのスケールにおいて、第 3 指が第 1 指をまたぐように作られている点である（譜例 7）。

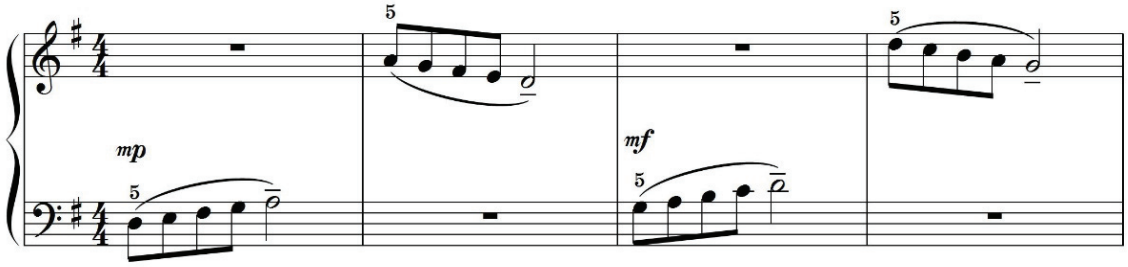


譜例 7　「雪すべり」冒頭部分（運指は作曲者による）

つまり、最も短い指を最も長い指でまたぐことで演奏することができ、手の自然な形を生かしながら、親指の移行を学習することができる作品となっている。

また、4 オクターブにわたる広い音域で作曲されている点もこの曲の特徴である。しかし、広い音域で作曲されてはいるものの、冒頭のモチーフが音の高さを変えて繰り返される同型反復となっているため、聴いている者にはやや複雑に聴こえるが、弾き手にはそれほど難解ではない。そのため、ギロックの理念である「ピアニストになった気分」を存分に味わえる曲であるといえる。この曲の学習が終わるころ、ピアノ学習についてコツをつかめてくる学生が多く見受けられ、この曲を気に入る学生も多くいる。

また、同音反復の形は譜例 8 のように逆行の形でも用いられている。



譜例 8　「雪すべり」第 9 小節から第 12 小節

この部分は、左右の手が同じ動きで弾くことができるようになっている。また、2 小節の単位で構成

[19] ジャン＝ジャック・エーゲルディンゲル（2015）前掲書、p.51

音が共通しているため、覚えやすい。しかし、同じ構成音ではあるが、左手の順次進行する旋律に対し、右手は逆から順次進行する旋律となっているため、聴き手は楽しんで聞くことができる。ギロックの「歌いやすいメロディー」と「実際弾くよりも、難しく聞こえる曲」という理念が生かされた作品であるといえよう。

５．ギロック作品の効果と課題

これまでの考察から、ギロック作品は初心者の学習に適しており、非常に効果的であるといえる。それは、手が自然な形で弾けるよう配慮された作品となっていることや、音楽作品として楽しめる曲であることなどが要因となっているからである。また、今野はギロック作品について「シンプルな曲でありながら、音楽的にひじょうに高度な内容を導入期から自然に学んでいくことができる」[20] とし、ギロック作品がピアノ技術の習得だけにとどまらず、音楽の内容を学習する上でも効果的であると主張する。そして「自分の頭で考え、自在に表現する力を育てていくためのエッセンス」[21] が詰まっているとし、ギロック作品の魅力について評価する。実際に、ギロックを教材として用いると、学生が進んで意欲的に練習に取り組むようになってきているという経験から、時間数の少ない教員養成大学における教材としては非常に良いと判断できる。

一方で課題としては、学習内容が段階的にまとめられた教則本となっているわけではないので、学習者の段階を見ながら適宜教材を与えなくてはならないことが挙げられる。指導者が、時には学習者の習熟度を見誤ったり、限られた時間数が原因となって技術を習得しないまま次のステップに進んだりすることもあり、その結果、難易度が急に上がったと感じる学生もいる。また、教員として現場で必要な伴奏や弾き歌いの学習に、ギロック作品の内容は必ずしも直結しない部分が多い。山本は「『バイエル』を使ってこなかった平成生まれの若い世代の保育士たちのなかには、メロディと伴奏のパターンがうまくできず、保育の現場で苦労をしている」[22]として、近年の新しい教材のみの指導の危険性を指摘する。

これらの課題は、限られた授業時間数の中では恒常的に存在するものであると考えられる。また、単にピアノ演奏の技術を身に着けるだけではなく、将来現場で役立つ技術を習得しなければならないという教員養成大学特有の課題でもある。今後は、これらの点を検討しつつ、教員養成大学におけるピアノ実技教材を検討していくことが課題である。

参考文献

今野万実（2016）『ピアノの先生が知っておきたい導入期の指づくり・音づくり・耳づくり『はじめてのギロック』でぐんぐん育つ表現力とテクニック』、株式会社全音楽譜出版社

エーゲルディンゲル、ジャン＝ジャック.（米谷治郎、中島弘二訳）（2015）『弟子から見たショパン―そのピアノ教育法と演奏美学―』、株式会社音楽之友社

ギロック、W.L.（安田裕子訳）（2001）『ギロック　アクセント①長調と短調』、株式会社全音楽譜出版社.

ギロック、W.L.（安田裕子訳）（2005）『ビギナーのためのピアノ小曲集　はじめてのギロック』、株式会社全音楽譜出版社

ギロック、W.L.（安田裕子訳）（2014）『ギロック　ピアノピース・コレクション①』、株式会社全音楽譜出版社

[20]今野万実（2016）『ピアノの先生が知っておきたい導入期の指づくり・音づくり・耳づくり『はじめてのギロック』でぐんぐん育つ表現力とテクニック』、株式会社全音楽譜出版社、P3

[21] 同上書、P3

[22]山本美芽（2017）前掲書、p.3

ギロック、ウィリアム.（安田裕子訳）（2016）『ギロック　ピアノメソード　ピアノ・オール・ザ・ウェイ　レベル 1A』、株式会社全音楽譜出版社

ギロック、ウィリアム.（安田裕子訳）（2016）『ギロック　ピアノメソード　ピアノ・オール・ザ・ウェイ　レベル 1B』、株式会社全音楽譜出版社

山本美芽（2017）『ピアノ教本ガイドブック～生徒を生かすレッスンのために～』、株式会社全音楽譜出版社.